

22:1 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、

22:2 都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。

22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、

22:4 御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。

22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは世々限りなく王として治める。

のろわれるものがないということは、神のさばきが完成されたことを意味します。そこには祝福だけがあります。神様はもともとはこのような世界をおつくりになり、それをサタンが墮落させてしまったのです。私たち人間はみな自分の罪ゆえにサタンに惑わされて、神に背いてしまいましたが、イエス様の十字架の身代わりによって赦されました。そのことが、永遠を決定する絶大な恵なのだということを思い起こしましょう。このような永遠の都に、永遠に祝福されて存在し続けることができるのです。

世の終わりや自分自身の死を思い不安になるときは、天地宇宙と命を創造された主の愛を思いましょう。その愛の中に受け入れられてゆくのだと思い、愛の御手に委ねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

